

添付資料

V2.0 の発表に向けて、パイロットテストを通じて検証を行った日本企業: アサヒグループホールディングス様

注1: 本資料は、[英語版のケーススタディ](#) の抄訳です。

注2: 内容は、アサヒグループホールディングス株式会社が取りまとめたものです。

パイロット企業として、実用的かつ行動重視の基準を重視する理由

アサヒグループホールディングス株式会社は、「アサヒスーパードライ」「ペローニ」「グロールシュ」などのブランドを展開するグローバルな飲食料品企業です。当社のネットゼロ目標は「SBTi (科学的根拠に基づく目標イニシアチブ)」の認定を受けており、2040年までにバリューチェーン全体で温室効果ガス(GHG)排出量ネットゼロを達成することを目指しています。2024年には、日本の企業として初めて、森林・土地・農業(FLAG)セクターの排出量を含む短期および長期の双方の目標においてSBTiの承認を取得しました。アサヒは、改定された「企業ネットゼロ基準(Corporate Net-Zero Standard) バージョン2.0」のパイロット企業の一社を務めています。

ビジネス全体の意思決定を形作る基準

科学的根拠に基づく枠組みは、気候科学に沿った確実で信頼性の高い排出削減の道筋を示してくれます。これらは、当社が長期的なサステナビリティ目標の達成に向けて取り組む中で、情報に基づいた適切な意思決定を行い、実施への機動力を維持し、一貫した方法で進捗を測定するための大きな支えとなっています。

バリューチェーン全体での協働

当社はすでに、バリューチェーン全体のサプライヤー、パートナー、そしてステークホルダーとの協働を進めています。GHG排出量の削減、実施体制の強化、そして社会と当社のビジネスの双方にとっての長期的な価値創造を目指し、幅広いイニシアチブを推進しています。この協働のアプローチは、脱炭素化とサステナビリティ目標の達成に不可欠であり、SBTiはそれを可能にする共通の枠組みを提供してくれています。

バージョン2.0への支持と、実践に向けた現実的な道筋

アサヒは、企業ネットゼロ基準の「バージョン2.0」を心より歓迎します。科学的な厳密さと、現場で導入しやすい実用的なアプローチを組み合わせたこの改定枠組みは、当社のような企業が脱炭素化を加速させ、高い志(アンビション)を測定可能な進捗へと落とし込むための信頼できる道筋を提供するものです。

複雑なバリューチェーン全体で変革をもたらすという「実務上の現実」と、気候変動対策の「緊急性」の双方を反映した基準を開発されたSBTiの尽力に敬意を表します。また、気候変動への高い志と、実装における現実的な課題の双方が反映された基準づくりに向けて、幅広いステークホルダーとの対話を重ねていただいたことに深く感謝いたします。